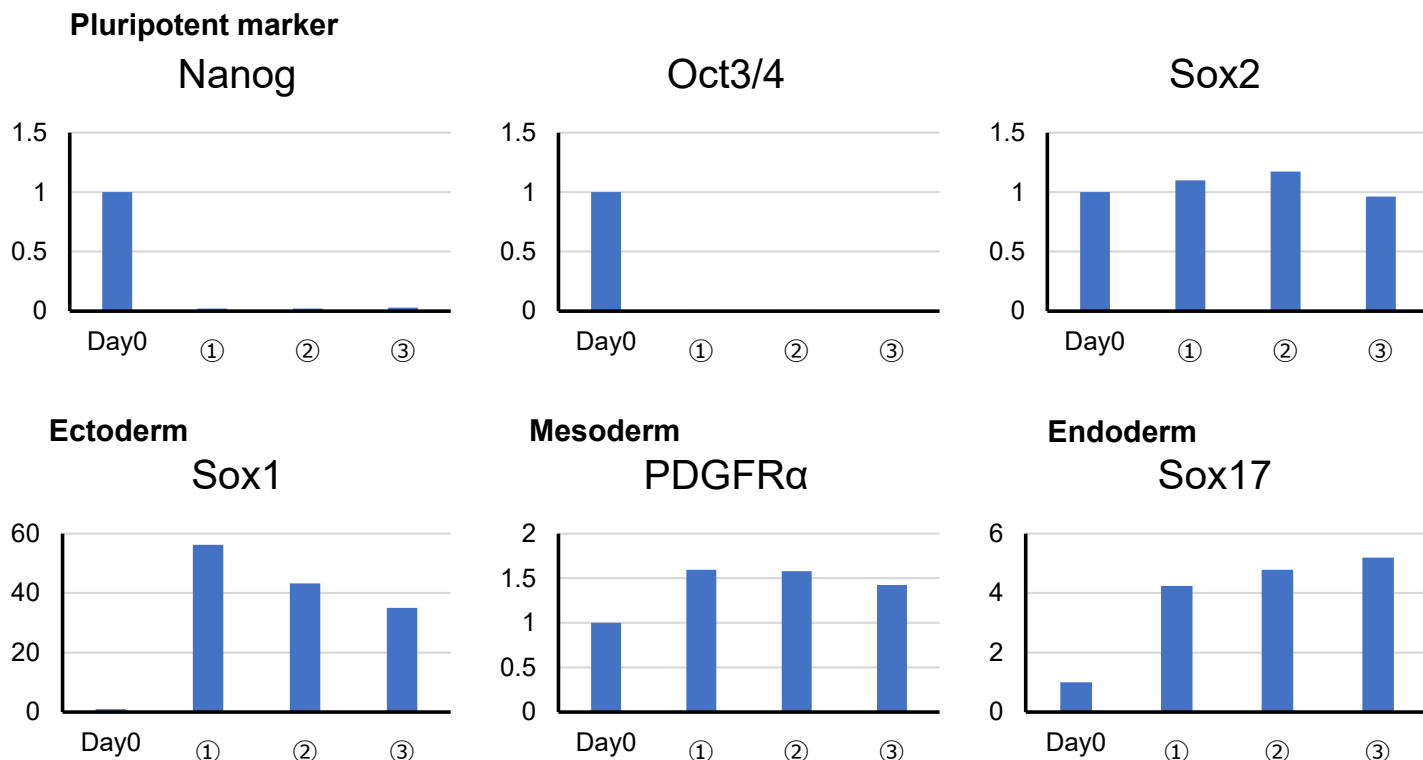


結果2



考察

スフェロイド形成（結果1）には、少なくとも3日目までY-27632を添加することが必須である。ただし、スフェロイド形成後であれば、Y-27632を除去しスフェロイドを維持することは可能である。

遺伝子発現解析の結果（結果2）、未分化マーカーのNanogおよびOct3/4の発現は減少し、各分化マーカー（外胚葉Sox-1、中胚葉PDGFR α 、内胚葉Sox-17）の発現は増加している。このことは、CELLFLOATシステム使用時に、APLE2に変更するだけで、分化誘導が可能であることを示唆している。

今回の結果により、CELLFLOATシステムを使用した三胚葉分化誘導法を示すことができた。各胚葉への優先的な分化誘導を行う場合には、ある程度の成長因子や低分子化合物が必要になることが予想される。しかしながら、今回の結果は、それぞれの分化誘導を行うことが可能であることが示唆された。